

地域包括支援センター坂下通信

認知症の人が住んでいる世界を理解するシリーズ⑤

認知症の人は、しっかりとした正常な部分と非常識的で少しおかしい部分とが「まだら」に混在する特徴があります。認知症の状態なのか、勘違いや頑固さからくるのか見分けが難しく、周囲が困る事があります。

(現れ方の例)

本人が1人で留守番中、財布を探したが見つからず「どろぼうが入った！」と警察を呼んでしまいました。家族が帰宅すると警察官がきています。本人は「風呂に入っていたら鍵を開けて誰かが家に入り自分の財布を盗まれたんだ。」と主張。事情を確認した警察からは、『事件性はない』といわれました。



(この場面で起きている事)

本人は財布をしまった場所を忘れ、どろぼうが盗っていったと思い込み「もの盗られ妄想」になっているようです。多くの方はどこかにしまい忘れたのだろうと思い警察を呼ぶことはしません。しかし、本人は財布をしまった事実を忘れており、認知症状から「誰かが入ってきてとった」と常識では考えられないことを主張しました。



(対応のヒント)

「なんで警察を呼んだの！」と本人を責めたいところですが、本人としては大事な財布がなく、盗られたと不安からおこした行動です。認知症の方は常に非常識な事をするわけではありません。常識的な言動の中で「あれ？」と思う様な常識では考えられない言動をすることがあります。これらは認知症状が原因でおきた事だと考えてみたらどうでしょうか。家族は、怒らずに本人の不安な気持ちをくんだ対応ができるかもしれません。



地域包括支援センター坂下

春日井市神屋町1306-1

☎：93-1314

開所時間：月～金曜日 9:00～17:30

出前講座開催、福祉サービス等の

ご相談は 左記まで

担当：飯田、戸田、永杉、木根、辻本

地元のお元気さん



このコーナーでは、毎回地域で活動している団体やグループ、介護予防に取り組んでいる方などをご紹介します。

春日井市ダンススポーツ連盟

社交ダンスを楽しみ、認知症予防につなげようと無料社交ダンス教室を神屋町公民館で開催されています。

毎週月曜日 午後1時から1時50分の50分間のレッスンです。音楽を聞きながら音に合わせて歩く練習から始め、パートナーを交代しながらワルツやタンゴなどを踊られています。

春日井市ダンススポーツ連盟 会長の三尾 英幸 様がボランティアで指導されており、笑いも交えながらステップを熱心に練習されていました。社交ダンスが好きな方であればどなたでも参加可能とのこと。興味のある方は直接会場に行ってみてください。



会長：三尾（みつお）さんより

介護が必要にならないように楽しみながら認知症予防として取り組んでいます。興味を持って好きな事に取り組むことが大切です。難しいステップもできたときは達成感もあり、目標をもって挑戦することも大切です。継続は力なり。ダンスが好きな方はお越しください。



地域包括支援センターとは？

地域包括支援センターは、春日井市の委託により運営される高齢者に関する総合相談機関です。支援が必要な高齢者やその家族の状況に応じた各種の保健福祉サービスが総合的に受けられるよう、情報提供や関係機関との連絡調整などを行います。相談は無料です。お気軽にご相談ください。

